



「ランディング」 香港からやってきた若者たちが、アスパラ生産農家で収穫体験。長靴を履き、北の大地に感謝。

# B2

## ニュースレター

2017/7/6

～夏のオススメイベント～

ビーフ天国まるっと黒松内 2017 7月30日

### 4月、5月、6月のトピックス

3月27日に法人登記が完了し、4月より新生黒松内町観光協会として各事業がスタートいたしました。4月は法人化に伴う各種事務手続き、協会公式ウェブサイトのリニューアル作業などに時間を費やしました。ホームページ(HP)については、町HPのトップページ<観光情報>より協会HPにダイレクトに誘導されるようになったこともあり、協会HPへのアクセス数が今年1月～3月の3カ月間の1,012件から、4月～6月のアクセス数が3,113件となりHP訪問者の数が約3倍に伸びています。

GW期間中は、新たな試みとして道の駅における観光PR・物産品販売・臨時観光案内業務を展開し、来訪者や送客先の飲食店などから一定の評価をいただくことができました。今回の取組みを今後の大型連休に活かせるよう、今夏のお盆休みや秋のシルバーウィークでの観光PR・物販等に向けた新たな戦略づくりを協会役員の皆様と伴に行っていく予定です。

収益事業については、GWより各種体験受入れの予約状況も活発になって参りました。昨年度と今年度の4、5、6月における体験受入れ数を比較しますと、昨年度の85名に対し、今年度は113名でした。申し込み組数では昨年の8組に対し、今年は21組。10名以上の団体受入れ数では、昨年の3組から1組だけ増えた4組という結果になったことから、団体受入れ数が減少傾向にあり、家族旅行を中心とする個人旅行者からの申し込みが増加していることがわかりました。また、集客組数では、昨年25%しか占めなかった外国人旅行者が、今年に入り67%になったことが客層における特徴です。夏季は、外国人客の動きが鈍化する時期ですので道内客をターゲットとした集客力を高めていきたいと思っております。(観光協会事務局)



### 北海道 150年松浦武四郎と黒松内

文：黒松内山道の会 北村 英芳

2018年、江戸末期から明治にかけての探検家・松浦武四郎が北海道と命名して150周年を迎える。黒松内の郷土史を研究する北村氏が武四郎ゆかりの黒松内史を紹介する。

ページ 2

### 山に登れば気分爽快

文・写真：辻野健治  
昭和10年、品質の高い金鉱脈が確認され、大栗鉱山の歴史がはじまり、昭和18年に閉山するまで600人以上が生活する巨大鉱山として繁栄した。黒松内のエキセントレッキング・ガイド辻野健治が廃鉱山を探索する。

ページ 3

### 菅野真司の図書続括

文：菅野真司  
「旅行」ではなく、「旅」というシンプルな言葉を使った方が、深みが増すのはなぜだろう。物見遊山で観光地を訪れるわけではなく、心に何かを抱えて、移動することで何かを捨てながら同時に何か新しいものを心に吸い込んでいくような、そんな響きが「旅」という言葉にはある。

ページ 4

### <イベント情報>

#### むらコン 2017.8.5(土)-8.6(日)

今年で3年目を迎える南後志まちコンイベントを島牧村江ノ島海岸で開催！流しそうめん、テント設営、砂浜でのゲームで新しいお仲間を作りましょう！

定員男女各20名、会費：男性5,000円、女性3,000円 問い合わせ：0136-75-6231(島牧商工会) <主催 南後志まちコン実行委員会 共催 島牧村、寿都町、黒松内町、南後志商工会広域連携協議会>

## 「北海道 150 年・松浦武四郎と黒松内」-其の 1-

文 黒松内山道の会 北村 英芳

平成30年(2018年)は、蝦夷地を北海道と定めた明治2年(1869年)から数え、150年の節目の年となります。道では、来年に向け「北海道」の名付け親でもある幕末の探検家松浦武四郎を柱とし、各種の記念事業を行う予定です。武四郎は幕末の蝦夷地を6回訪れ、数多くの日誌を残しています。安政4年(1857年)には黒松内山道も通行しており、山道筋の様子やアイヌ語の地名を『丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌』の中の「志利辺津日誌」編に書いています。

明治に替わり、開拓使とその後の北海道庁は「字」の新設・改変取り扱いを行い、黒松内町旧3村もアイヌ語の地名を漢字に当てはめた「字名」となったのですが、昭和に入ってから再度の字名改称が行われ、明治からの字名のほとんどが集約され消滅してしまいます。節目となる来年に向けて、志利辺津日誌に書かれた山道筋のアイヌ語地名と、消滅した字名を比較し山道のルートを検証して行きたいと思います。手始めとして今回は、長万部町蕨岱から黒松内朱太川渡船場(※現在の黒松内1区)までを取り上げました。(※カッコ内は、アイヌ語地名の意識と、明治に入ってから旧字名を含む行政字名です)

『丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌・志利辺津日誌』

**ワラビタイ**(ワルンベフル/わらびが群生する丘→**蕨岱**) 平山茅野にして人家一軒有。眺望甚よろし。過て坂に上る。此辺りを

あやめの**溪蓀野**(※場所の特定はできないが、文面の流れから現在の旧蕨岱駅辺りと思われる)と云。実に唱の如く一面溪蓀にて照輝の如し。過てしばし坂に上りて

えなお**削花峠**(アイヌの祭祀具エナヲがあった丘/祭祀場→エナヲ峠→**稲穂峠**) 古えはヲシヤマンへとアフタ領の境とせし由。今は其境七八丁アブタの方え移したり。しばし山の手を過て樹木多し。

**ブナの樹台**(フナノキタイ→ブナノキタイ→ぶな風栗/ぶなの木が多い丘→ぶなたい**撫岱**) 道の左右に風栗の木多き故に号るなるべし。此处より右の方スツハヘツの川すじ、左の方クロマツナイの川すじ也。過て左の方に

**ウタサイ**(ウタサンイ→そこで川が互いに・もの/川の十文字になる所→**歌才**) 云ふ山一つ有るなり。此处の下を廻り少し過て

**ウムトイ**(※アイヌ語の意識と場所は不明。文面の流れから現在の野球場あたりと推測する)

**フシコクロマツナイ**(もとの・古い黒松内川・旧河道→フシコ黒松内→現在の**寺ノ沢川**) 小川、板橋有。此处平原茅原。此处より境目まで黒松内利右エ門新開道のよし。少し樹原を過て、

**クロマツナイ**(クル・マツ・ナイ→和人の女の住む沢→黒松内川/黒松内) 人家壹軒利右エ門有。前に川有。船を似て渡す。船賃十三文ヅハ。休泊所に成家建大なり。 (次回へ続く)

参考文献

- ①「丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌」上・松浦武四郎 /昭和57年1月30日北海道出版企画センター発行
- ②「データベース アイヌ語地名1 後志」榊原正文 著/1997年11月15日北海道出版企画センター発行
- ③「黒松内町史・上巻」編集・発行 黒松内町/昭和62年3月25日発行

### 観光協会スタッフの紹介

本間崇文(ほんま・たかふみ)

小樽生れ、九州育ち、英国在住歴12年、黒松内に移り住み6年目を迎えた事務局長の本間です。昨年度より、シンガポール、マレーシア、香港など東南アジアの富裕層ファミリーを中心に外国人客の体験受入れ業務が急増しています。ブナ林散策ガイド、農業体験、釣り体験の他、地元飲食店への送客も増加傾向にあり、今後も皆様のお力をお借りして体験交流のネットワーク網を広げていきたいと思ひます。新たなご提案等ございましたら、是非、事務所まで。



### 地域おこし協力隊員・砥石隊員

はじめまして、黒松内の白井川で生まれ、積丹、札幌で育ちました砥石航治(トイシ・コウジ)と申します。今年の4月まで6年間マレーシアに在住していましたが、満を持して北海道に戻って参りました。どうぞよろしくお願い申し上げます。まずは、観光協会で活動しながら町に慣れ、色々学び、そして気がついたら定住していた!町に貢献していた!となればいいなと思っています。好きな食べ物は、牡蠣・豚肉・お稲荷さん・おはぎ、苦手なものは寒さ。(寒冷地仕様ではありません)どこかで見かけましたら気軽に声掛け下さい。



## ～山に登れば気分爽快～ 秘境まだまだ！その八「見つけた大栄鉱山跡」

文・写真 ノースランド 辻野健治

こんにちは～ブナの森登山ガイド 辻野です。  
さて、寒い日が続いていますが、もう季節は初夏を迎えております。  
う～、黒松内周辺の秘境話も、終わりが近づいているようです(汗)  
あっ！思い出しました、ちゃんとした秘境がありました。それも、産業遺産です。かつて 黒松内に鉱山が2ヶ所あったそうですが、近隣地域を入れると何と4ヶ所もの鉱山があったようです。そのひとつが西の沢の大栄鉱山です。場所は、ご存知の方もいるかと思いますが、黒松内岳登山口に行く途中、立派な石碑があるところです。  
いつもは、車で移動するので、つい通り過ぎてしまいましたが、この日は、歩いて登山口まで行く用事があったため、途中に立ち寄り、石碑の後ろから奥の方へ、何かないかと進んでみたら、何と鉱山施設跡がありました。円柱構造物が6基、土留擁壁や、排水管跡などを確認することができたのです。しかし、流石の私も？暗い穴から、熊？や狸や狐やアライグマなんかが出てこないかとドキドキしましたが大丈夫でした。暗くて穴の奥がどこまで続くのか見当がつかない排水管を覗きこむと、何だか異空間へ誘いこまれるような感覚に陥ります。おっといけない、現世に戻らなければ・・・。ネットから借りた、古い見取り図（所在不明）を見ると、東西に延びる茶色の線が現在の林道で、赤丸の箇所が今回見つけた精錬所跡地だと思います。当時、こんな山奥に600人の方々が住んでいたとは、感慨深いものがあります。



## じり通信 文 山本 竜也

「駅名看板が見つかりましたよ！」。元寿都鉄道機関士の佐藤喜悦さん(96)から電話をもらった。南後志の歴史を調べる私と佐藤さんの付き合いは、もう9年になる。「阿部金物店の倉庫で見たはずだ」と思い出をたどり、その親族に確認をとってみると佐藤さんは言っていたが、私はあまり期待しなかった。しかし、その記憶は正しかった。寿都駅と樽岸駅の駅名看板が発見されたという。

先日、旧株式会社ヤマジウ阿部商店社長の息子にあたる阿部正明さん(71)と二つの駅名看板を車に積み、佐藤さんに会いに行った。「半世紀ぶりの再会ですよ」。佐藤さんは満面の笑みを浮かべた。

1967年の暮れに最後の営業運転を行った寿都鉄道は、社員に給料も退職金も支払わずに行き倒れた。1970年に本社屋が火災に遭ったこともあり、資料はあまり残っていない。しかし、こんな貴重なものが眠っていた。

阿部さんによると、父の弘さん(故人)が、鉄道廃止後に寿都駅舎を倉庫として借りた。駅名看板が転がっているのを見た弘さんは「もういらんべ。投げておけ」と言ったが、阿部さんは捨てがたく思い、片隅に転がしておいた。その後、駅舎は返したが、荷物を自宅倉庫に移す際に、駅名看板も持っていった。一方、鉄道退職後に寿都裁判所に勤めた佐藤さんは、ボランティアで庭造りをしており、阿部家にも出入りしていた。その倉庫を覗いた折に駅名看板を見て、驚いたという。「阿部さん、よく残しておいてくれたねえ。佐藤さんがそう言うと、「なんでも鑑定団に出せば、いくらになるかなあ？」と阿部さんが冗談を返す。3人で記念撮影に興じていると、通りがかった人たちも興味深そうに眺めていく。

湯別駅の駅名看板は寿都町教育委員会に所蔵されているが、残る中ノ川駅と黒松内駅の駅名看板は見つかっていない。「機関車のプレートも、どこかにあるはずなんだよなあ」。佐藤さんがつぶやく。寿都鉄道の開業年に生まれた佐藤さんの前半生は、鉄道とともにあった。その思い入れは深く、駅名看板を前にして、思い出話は尽きなかった。(山本竜也・札幌在住・気象庁勤務)



寿都、樽岸の駅名看板と筆者(左)、佐藤さん(中央)、阿部さん

## 菅野真司の図書統括

「旅をする木」 星野道夫 / 著 文藝春秋社 550 円

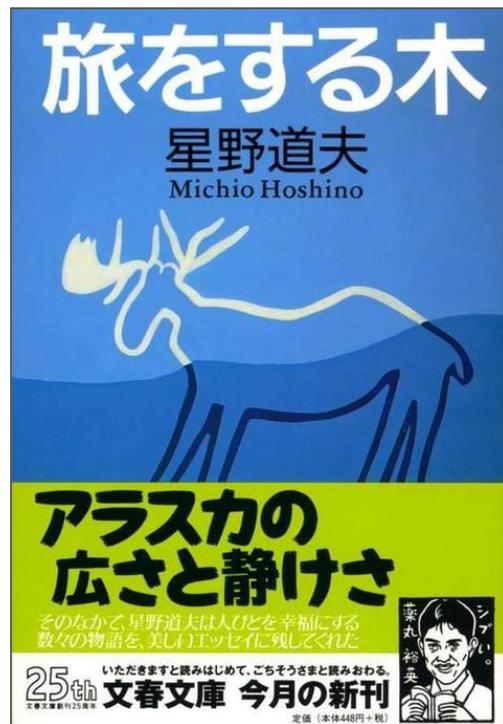
究極の旅は、移動しない

初めて自分の自転車を手に入れたとき、急に行動範囲が広がって、気持ちが大きくなって、これならどこでも行けるような気がして、帰りのことは考えずにひたすら走ったら真っ暗になってしまって、ひとりであることの心細さとか、一生懸命に漕がないと明るくならないライトのありがたみも初めてわかった。隣の町の、さらに隣の町くらいまで行っただけだったと思うけど、それは大冒険であり初めての旅だったような気がする。でも、男の子なら誰でも経験するようなそんな「小さな旅」への思いをこじらせたまま大人になってしまうと、厄介だ。

「旅行」ではなく、「旅」というシンプルな言葉を使った方が、深みが増すのはなぜだろう。物見遊山で観光地を訪れるわけではなく、心に何かを抱えて、移動することで何かを捨てながら同時に何か新しいものを心に吸い込んでいくような、そんな響きが「旅」という言葉にはある。大混雑の観光地を訪れてガチャガチャと写真を撮り、山ほどお土産を買っても、「旅心」が満たされることはない。目の前にあるものを、きちんと自分の目で見る事ができていないか。聞こえてくる声を、どのように受け止める事ができたか。そういうことで「旅」はできている。だから、わざわざ遠くまで出かけなくても、旅はできる。ちょっとコンビニまで出かけることも、隣の家に回覧板を回すことも、自分が旅だと感じる事ができれば、それは旅だ。

大人になればなるほど、そういう言い訳がうまくなっていく。自分は死ぬまで、そういう厄介な大人であろうと思っている。

文・菅野 真司 (かんのしんじ) shinjikanno@gmail.com



## 一社) 黒松内町観光協会会員一覧

### 役員

代表理事・小間 憲二・小間旅館、副代表理事・田中 春治・(有)田中商店、副代表理事・鈴木 昭文・(有)共栄商会、理事・菅原 正久・(有)菅原商会、理事・茂尾 実・サン工芸、理事・五位尾 肇・五位尾商店、理事・菅原 圭介・(株)スガワラ、理事・小谷 孝夫・黒松内銘水(株)、監事・及川 雅子・及川旅館、監事・相澤 雅也・相澤精肉店

### 継続会員(正会員)の皆様

明上山 ノリ 様・(有)黒松内ハイヤー、池田 重人 様・(株)池田商店、坂下 英清 様・坂下薬局、佐藤 時彦 様・(有)五十嵐時計電器店、黒羽 修平 様・黒羽商店、出口 久弥 様・(有)デグチ板金、清水 目 浩一 様・(有)名取商店、磯谷 恵美子 様・いそや理容店、北海信用金庫黒松内支店 様、江尻 弘 様・黒ひげ、亀岡 利明 様・(株)亀岡組、小笠原 喬 様・川崎土建(株)、木村 淳一 様・(株)木村建設組、清水 悦子 様・パロマ理容院、荒井 秀章 様・栄寿し、今井 順子 様・今井たばこ店、多田 直生 様・居酒屋とんぼ、三浦 義也 様・とうふ処みうら、(株)ブナの里振興公社 様

### H29 年度新会員の皆様

【正会員】 富田 キクエ 様・ふぁーむいん富田、高木 晴光 様・ぶなの森自然学校、辻野 健治 様・ノースランド、道南エア・ウォーター(株)黒松内サービスセンター 様、黒松内郵便局 様

【賛助会員】 安藤 昭 様、工藤 陸美 様、笠間 さち子 様、我つま 様、新川 幸夫 様、北友 卓也 様(岩内町)、桜居 正見 様(岩内町)、片岡 歌子 様、松原 淳 様、小菅 康一 様、本間 崇文

＜観光協会事務所がぶなの森温泉内に移転しました！ 〒048-0101 寿都郡黒松内町字黒松内 545 番地ぶなの森温泉内＞

観光協会HPにて「B2」バックナンバーがご覧になれます。www.bunatatourism.com 印刷版ご希望の方は黒松内町観光協会までご連絡願います。